

に や い し が た に こ ふ ん ぐ ん に や あ か た い せ き 新谷石ヶ谷古墳群・新谷赤田遺跡

現地説明会資料



新谷石ヶ谷6号墳石室床面検出状況(西から)



新谷赤田遺跡調査風景



SI04鉄製品出土状況(赤田)



SI06管玉出土状況(赤田)



谷部2Tr断面(赤田)



新谷石ヶ谷古墳群発掘調査風景

事業名 一般国道196号今治道路関連埋蔵文化財調査

委託者 愛媛県

(事業主体：国土交通省四国地方整備局)

調査主体 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

調査場所 今治市新谷

調査期間 平成27年4月17日

～平成28年3月31日(予定)

調査面積 全体；26,030㎡

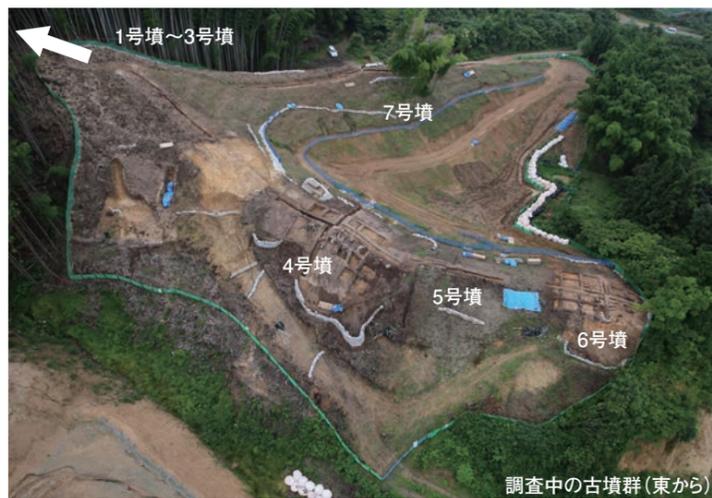
新谷石ヶ谷古墳群；7,230㎡

新谷赤田遺跡；6,190㎡

今回の発掘調査では、新谷森ノ前遺跡の北側に展開した弥生時代と古墳時代の集落、そして南側の丘陵部に展開した古墳群の様相について明らかになりました。

新谷石ヶ谷古墳群では4基の古墳(新谷石ヶ谷4～7号墳)の調査を行い、6世紀代から7世紀初頭の横穴式石室をもつ円墳であることがわかりました。

新谷赤田遺跡では弥生時代中期後半から後期前半期と古墳時代後期の集落跡がみつかりました。この調査で新谷森ノ前遺跡で確認されていた古墳時代後期の集落が、谷を挟んだ丘陵にも展開することがわかりました。



新谷石ヶ谷古墳群の発掘調査

新谷石ヶ谷古墳群では、平成23年度の試掘調査で調査区内に3基の古墳が存在することが確認されてきました。今回の調査で新たに1基あることがわかり、合計4基の調査になりました。古墳が造られた尾根は調査区の南端から二股に分岐します。東側尾根の南から順に4号墳、5号墳、6号墳とあり、西側尾根には7号墳があります。1号墳から3号墳は調査区の南端よりも南側にあります。

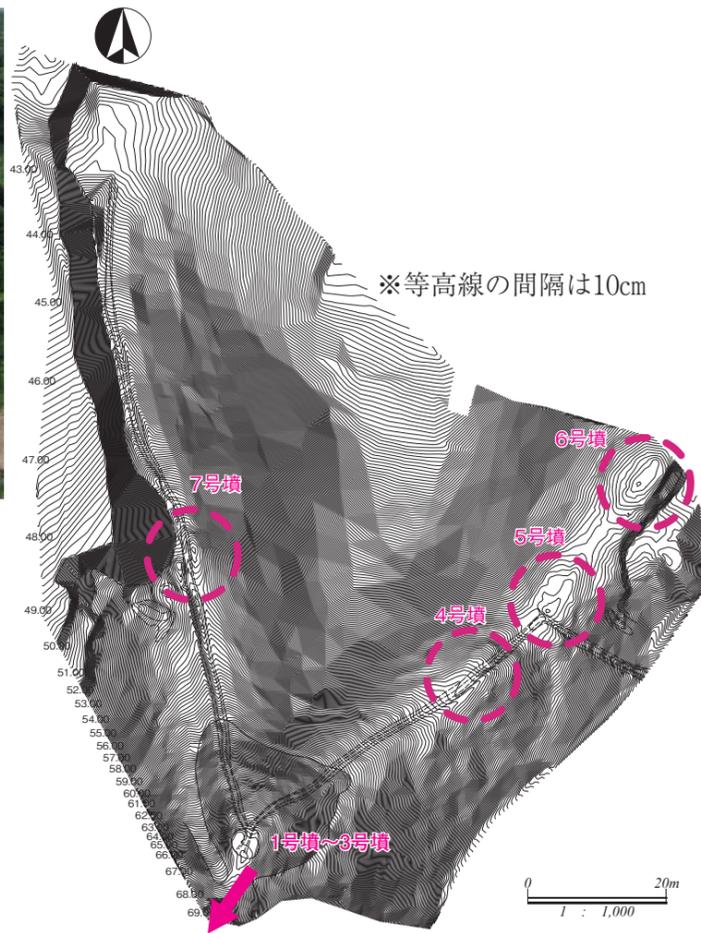


図1 新谷石ヶ谷古墳群地形測量図(S=1:1,000)



新谷石ヶ谷4号墳

直径約12mの円墳で、石室は南北方向が長軸です。石室規模は長軸約4.5m×短軸約2m、開口部は南側です。時期は6世紀中葉から後半の時期と思われます。

新谷石ヶ谷5号墳

直径約11mの円墳で、石室は南北方向が長軸です。石室規模は長軸約6.6m×短軸約2.6m、開口部は南側です。出土遺物は須恵器片、鉄製農耕具片1点、鉄器片数点、ガラス小玉20点、管玉4点が出土しました。時期は6世紀中葉から後半の時期と思われます。

新谷石ヶ谷6号墳

直径約12mの円墳で、石室は東西方向が長軸です。石室規模は長軸2.8m×短軸1.1m×残存高約1.5m、開口部は西側です。出土遺物は須恵器、鉄製農耕具、馬具、鉄刀、鉄鏃、ガラス小玉、管玉などです。時期は6世紀後半から7世紀初頭と考えられます。

新谷石ヶ谷7号墳

直径16mの円墳で、石室の規模は長軸約4m×短軸約1.4mです。墳丘の端から須恵器と埴輪が出土しました。時期は6世紀前半期と考えられます。

新谷赤田遺跡の発掘調査

新谷赤田遺跡は、調査区北側に谷部が形成され、丘陵部を挟み、更に谷部が確認されています。今回の調査では、弥生時代中期末から後期初頭や古墳時代中葉から後半にかけての遺構や遺物がみつかりました。

弥生時代の竪穴建物は11棟確認されています。周壁溝が数条巡る建物や中央から放射状に延びる溝をもつ建物もあります。出土した遺物は少ないですが、竪穴建物および周辺の遺構から出土した遺物を見る限り、弥生時代中期末から後期前半のものと考えられます。一部の柱穴では柱痕から多くの遺物が出土するものがあります。建物を廃棄するときに、柱を抜き取ってから遺物を入れているようです。

古墳時代の竪穴建物は2重の周壁溝が巡るものが多く、北側にカマドをもちます。須恵器片、土師器片、そしてわずかではありますが玉類などが出土しています。

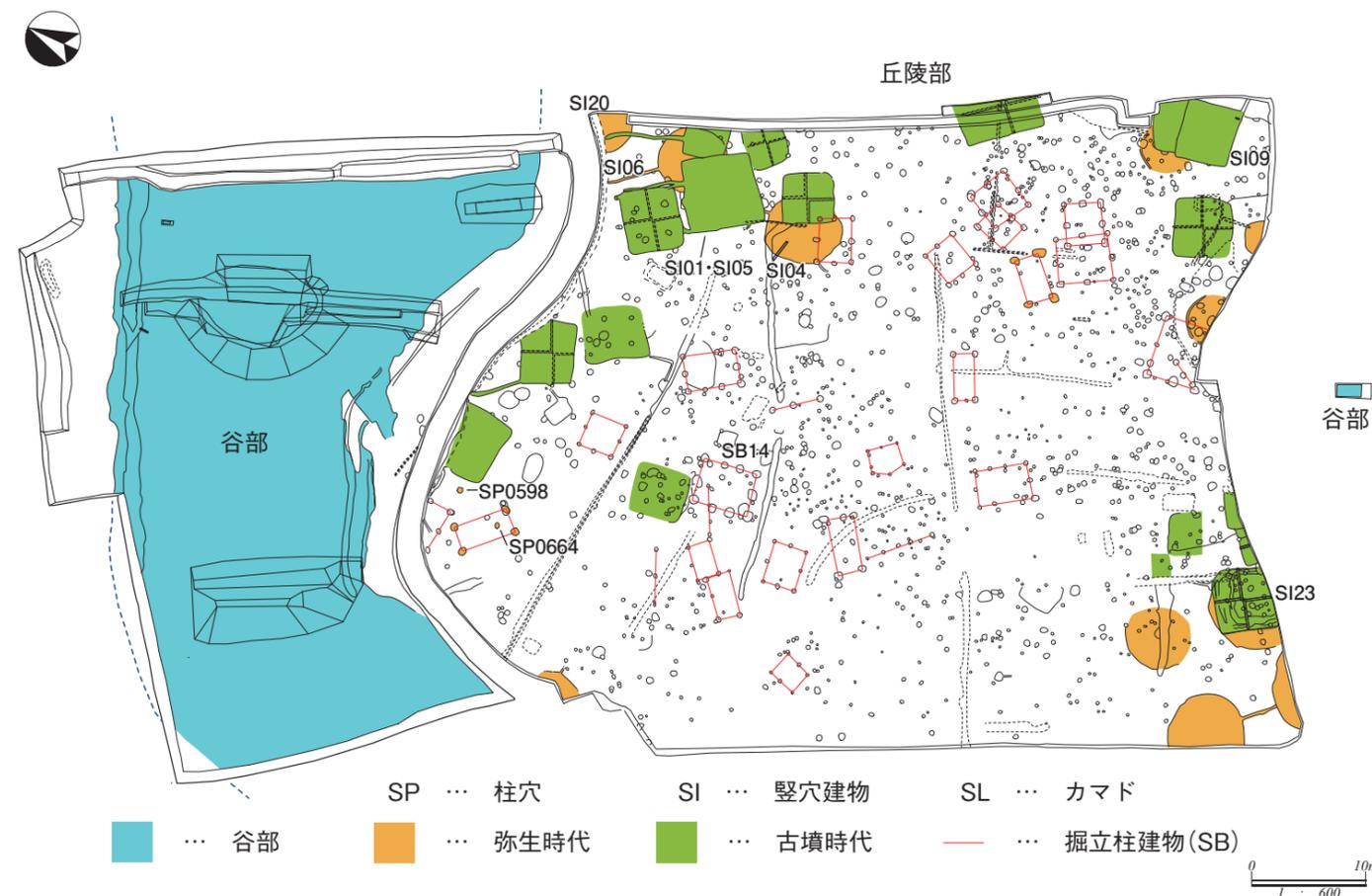


図2 新谷赤田遺跡遺構配置図(S=1:600)



B.C. 30000頃 B.C. 16000頃 B.C. 400頃 B.C. 100頃 中期後半 A.D. 100頃 後期 3世紀 中頃 592年 710年

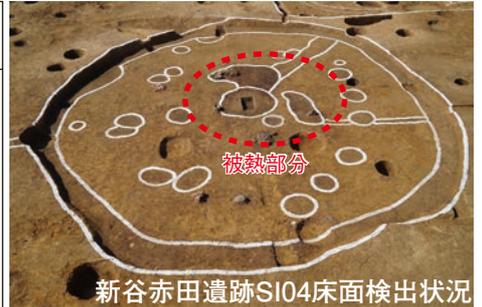


新谷石ヶ谷6号墳人骨検出状況

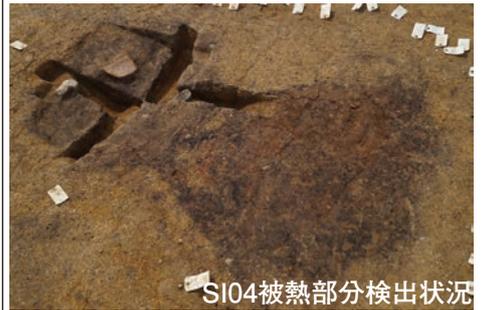
3人分の頭蓋骨

6号墳では石室の奥側で人骨が出土しました。頭蓋骨の数から少なくとも3人は埋葬されていたようです。出土した須恵器は6世紀後半から7世紀初頭頃のものでした。人骨の数と須恵器の出土層位から、埋葬が複数回にわたって行われていたことが明らかとなりました。

年代	中村浩 1978 2001	田辺昭三 1981	石ヶ谷 古墳群	赤田 遺跡
5世紀 471年 5世紀 後半	I型式 第4段階 第5段階	I期 TK23 型式 TK47 型式	7号墳 6号墳	
6世紀 前半	第1段階	MT15 型式	4号墳 5号墳	
6世紀 中頃	第2段階	TK10号 窯段階 TK10 型式		
6世紀 後半	第3段階	MT85号 窯段階		
6世紀 後半 588年	II型式 第4段階	TK43 型式		
7世紀 前半 616年 以後	II型式 第5段階	TK209 型式		
7世紀 中頃 645年 648年	III期 第1段階	TK217 型式		
7世紀 中頃	III型式 第2段階			



新谷赤田遺跡SI04床面検出状況



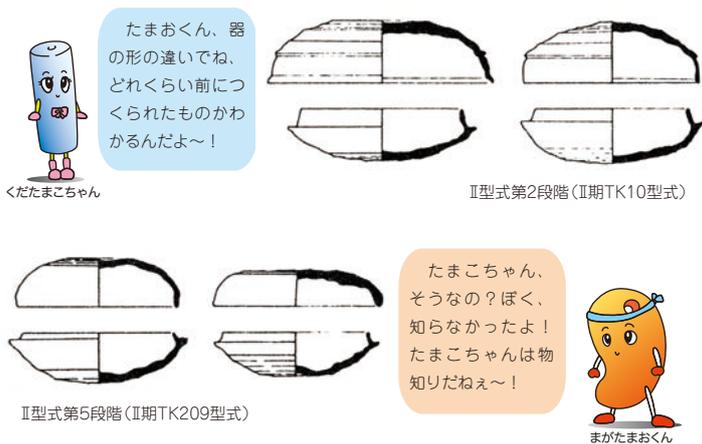
SI04被熱部分検出状況

弥生時代の鍛冶工房

SI04は中央に土坑を持ち、その南東側と北側に床面が被熱した箇所があります。その周辺から鉄滓、鉄片などが出土しており、鍛冶工房の可能性が高いと考えられています。なお、現在SI04からはガラス小玉が36点出土しており、この遺構の位置づけに大きな意味を付加する可能性があります。

須恵器編年対照表

(大阪府立近つ飛鳥博物館編2006『時代のものさし-陶邑の須恵器-』より一部改変して使用)



須恵器の実測図は中村浩2001『和泉陶邑窯 出土須恵器の型式編年』より転載して使用。スケールは1:6。



図3 周辺地図

S=1:100,000